

³H - Paroxetineの脳内 in vivo 結合に及ぼす MDA および MDMA の影響

橋本謙二, 五郎丸 毅

薬物・精神・行動 (*Jpn. J. Psychopharmacol.*) 10 : 72 (1990).

Effects of MDA and MDMA on in vivo binding of ³H - Paroxetine in the brain

Kenji HASHIMOTO and Tsuyoshi GOROMARU

抄録 3,4-Methylenedioxyamphetamine (MDA) および 3,4-Methylenedioxymethamphetamine (MDMA) は覚醒剤である amphetamine の誘導体であり, 近年セロトニン神経系に対して神経毒として作用する事が知られている。そこで今回, [³H] Paroxetine のインビボ結合に及ぼす MDA および MDMA の影響を調べた。マウスにおける [³H] Paroxetine の脳内動態が MDA (10 mg/kg) あるいは MDMA (15 mg/kg) の前投与によって著明に変化した。しかし, インビトロの結合実験より, Bmax 値および Kd 値はこれらの薬物の投与によって変化しなかった。

本実験の結果より, MDA および MDMA による [³H] Paroxetine のインビボ結合減少は, セロトニン神経終末の破壊によるものでなくむしろ MDA あるいは MDMA 自身による阻害の可能性が示唆された。